

計画・実践・提案

1. モデルカリキュラム開発の問題意識と計画

DISTANCE
2006

On the Job Training(OJT)の方法を体系的に学修させ、もって学び続ける文化を学校の中に醸成し、研鑽を続ける教員が育つ環境を学校につくる研修プログラムの作成を目標とした。

教員研修を発展させることを目的として、様々な問題を解決する過程自身が“OJT”の方法を学ぶことであると考えた。

宮城県教育委員会との連携のもと、宮城県佐沼高等学校(以下 佐沼高校)、宮城県角田高等学校(以下 角田高校)、宮城県石巻工業高等学校(以下 石巻工業高校)を拠点校として選定し、

さらに仙台市教育委員会の協力を得て、大学教員、教育委員会指導主事との協働による授業研究、公開授業研究会の開催などを通じて、授業研究や恒常的な授業研究体制づくりなどの方法を、教員集団に習得させるための活動を行うものとした。

併せて、これらの拠点となった高等学校を中心として、校内のみならず、近隣の小、中学校の研修とも連携した異校種との協働による授業検討により、相互の学校文化を相対的に理解させ、児童・生徒の学力向上の基盤を固める活動を行うものとした。

2. 実践内容

DISTANCE
2006

(1) 授業研究方法の研修

☐ 協働による授業研究

拠点校教員と大学教員や、宮城県教育研修センター指導主事等との協働により授業研究を行い、授業方法、教材、授業内容等に関する議論の上に授業づくりを行った。

☐ 研究授業

授業研究の成果を公開授業研究会を通じて地域に還元するとともに、事後の検討会では大学教員が授業の分析的な見方を示す中で異校種を含めた教員の広範な授業改善に向けた議論を行った。

(2) 校内授業研究体制の研修

☐ 授業研究の方法についての研修

附属小、中学校の公開研究会への参加や、大学での研究や授業研究に実績を持つ県内の高等学校の養育を基盤とした校内授業研究の組織化に関する研修等を通じて、授業研究の方法について研修した。

☐ 授業検討会の組織化の研修

拠点校教員が集まった研修会などを通じて、授業検討会の実施方法を検討した。

☐ 授業研究体制の敷衍

宮城県教育研修センターが開催する研修会等で、校内授業研究体制の構築について、本研究対象校の実践を紹介した。

(3) 大学、拠点校、教育委員会の連携方策の検討

☐ 連携方法の検討

大学、教育委員会、高等学校の相互の組織理解の上、円滑な連携に不可欠な任務分担等を検討した。

☐ 異校種間の連携

宮城県教育委員会を基軸として、異校種間での授業研究を円滑に行う方法について、検討した。

☐ 本学附属小、中学校が保有する豊かな授業研究の成果を、宮城県内の学校に活用する方法について検討した。

(4) 具体的な活動

“教員研修まるごと研修プロジェクト”として行ったもののうち、主な活動について以下の表に示す。公開研究会に向けた授業づくりなど、それぞれの活動の準備を含めて、大学、教育委員会、拠点校は活発な連携活動を行った。

その詳細はそれぞれの拠点校からの報告を参照されたい。

○校内研修の組織化に関する研修

活動名	場所	日時
校内研修在り方研修①	佐沼高校	6月16日
研究会運営研修	宮城教育大学 附属小、中学校	6月30日
高等学校校内研究・研修 担当者研修会	宮城県教育 研修センター	7月5日
校内研修在り方研修②	石巻工業高校	8月21日

○授業づくりに関する研修

活動名	場所	日時
研究授業観察	宮城教育大学 附属小、中学校	6月30日
横須賀薫氏講演会「授業の成立」	角田市民センター	7月25日
中高連携授業研究会	佐沼高校、 佐沼中学校	4月26日、5月25日、 6月28日、9月26日 (Sanuma授業塾)、 2月20日
教科指導研修会 (指導案の意義等について)	仙台市教育センター	8月7日
指導案作成研修会	石巻工業高校	9月6日
Sanuma授業塾(公開授業研究会)	佐沼高校	9月26日
石巻工業高校 授業公開研究会	石巻工業高校	10月12日
横須賀薫氏講演会 「学び続けることの大切さ」	石巻工業高校	11月7日
角田高校公開研究授業	角田高校	11月2日 11月9日

3. モデルカリキュラムとしての提案…OJTの方法を学ぶために

DISTANCE
2006

教員が教員研修に関わるOJTの方法を学び、発展させていくための施策について提案する。

(1) 教員研修を専ら考える組織を校内につくる

特に高等学校では「授業は個々の職人業に任せられ、組織的な授業改善は実施しにくい傾向にある。けれども、学校全体としての研修を継続的に実施するためには、その中核となる組織の設置は必須である。研修活動が活発になるにつれその任務はさらに重要となる。授業改善に関わるOJTを活発化するためには、その方法を専ら考える組織が必要となる。

本研究では、3拠点校のかかる組織が、授業研究に関わるプラン(P)、実践(D)、評価(C)、改善(A)のサイクル(PCDAサイクル)の中心的な役割を果たした。

佐沼高校には、学力向上研究委員会がつけられ日常の授業改善活動や、他校との連携、大学・教育委員会との連携のハブとし

て機能しており、角田高校にも平成18年度から授業力向上委員会が設置され「授業を中心に据えた学校運営を具体化するもの」として機能している。石巻工業高校では、今年度は教育課程編成委員会がその任にあたったが、次年度以降には授業改善に関わる委員会を新設することを検討中である。

校外での研修の成果を校内に広め、蓄積する役割も期待される。本学附属小、中学校で開催された公開授業研究会に3つの拠点校の教員が参加し、研究授業に参加するとともに、公開授業研究会運営の方法について研修した。教員養成系大学・学部・附属学校の教員研修を進める組織は、組織運営方法等に関する大いなる蓄積を持つ。教員養成系大学・学部の活用も効果的であると考えられる。

(2) 教員研修を進める組織を動かす

① 明確な活動目標を研修計画に位置づける

…公開授業研究会、公開講演会

組織をつくっただけでは動かない。校長のリーダーシップや教員集団のモラルが重要なことは言うまでもないが、組織を駆動し研修を発展させていくためには、わかりやすい目標が必要である。

本研究の中で実施された授業研究会や、角田高校、石巻工業高校が主体となった横須賀薫氏(本学元学長)の公開講演会を企画し実行する活動が研修活動全体の駆動に果たした意義は大きい。

石巻工業高校では公開講演会によって授業改善の視点を付けた後、公開授業研究会に向けた活動を行うものと位置づけているが、イベント型の活動を日常の研修計画に位置づける必要がある。

② 外部機関と協働する

■ 大学・教育委員会との協働

活動の持続には外部機関との適度な緊張関係が必要である。たとえば、佐沼高校の公開授業研究会である「Sanuma授業塾」や角田高校の公開授業研究会の開催に向けて、各授業者が数度にわたり大学教員や教育委員会指導主事とともに授業内容、方法について検討を重ねている。外部の人間との協働による授業の検討は、授業改善のヒントを掴む場であるとともに、適度な緊張関係により活動に活力を与えるものと考えられる。

■ 他校との協働……自主的な発展を目指して

佐沼高校での「校内研修在り方研修①」では、佐沼高校の教員と本学教員が講師となった研修会を行った。この研修会には角田高校、石巻工業高校からも教員が参加した。この交流がきっかけとなり、石巻工業高校の発表で同校にて本

学教員と佐沼高校教員を講師とする「校内研修在り方研修②」を開催し、佐沼高校での実践を石巻工業高校全体に広げる活動が行われた。

また、3つの拠点校の公開授業研究会には小学校や中学校の教員も参加している。さらに、佐沼高校は佐沼中学校と相互に訪問して授業のあり方を検討している。小、中、高等学校の授業方法はしばしば異なる。異なる授業方法を持った教員との討論は、自校での授業の在り方を相対化して理解するために重要な活動である。

教員研修を進める中核的組織を介した学校間での協働は、自発的かつ継続的な教員研修の活動に不可欠なものであり、教員研修を進めようとする学校のネットワークづくりが必要である。

③ 成功例の顕彰と敷衍

宮城県教育研修センターが主催した、高等学校校内研究・研修担当者研修会で、佐沼高校教員が、校内研究・研修の意義や研究・研修のための組織化、研修の進め方等について事例発表を行った。県内の全高等学校の担当者を対象とした研修会での発表は、佐沼高校の事例を敷衍するとともに、同校の活動が公の機関によって顕彰されたことを意味し、さらなる発展が期待される。

おわりに

いずれの学校にも、授業改善のための暗黙知が蓄積しており、また「授業を改善したい。」と考える教員は必ずいる。これらの授業改善、教員研修に関わる暗黙知や思いを具体化させる環境を整えることが、授業改善、教員研修にとってなにより必要だと考えている。

宮城教育大学教授 田橋 憲一 (学校まるごと研修プロジェクト 世話人代表)

プログラム名 : 学校まるごと研修プロジェクト

<http://prc.miyakyo-u.ac.jp/issue/pdf/distance2006.pdf>

【問い合わせ先】

国立大学法人 宮城教育大学

就職・連携主幹

〒980-0845

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL 022-214-3329